

ラリー・ウィリアムズの新インディケーター WVF

今、最も注目を集めている VIX 恐怖指数

VIX は S&P500 を対象とするオプション取引の値動きを元に算出・公表されているが、ほかの市場では同じような指数が存在していない。

そんな問題をラリー・ウィリアムズが解決した！

「マーケットとは何か」という問いに、あの有名な投機家であるバナード・バルクは「市場とは変動するもの」と答えている。

それを体現できる指標がシカゴ・オプション取引所(CBOE)に上場されている。それが 1993 年に CBOE に登場したボラティリティインデックス(VIX)である。VIX は別名、恐怖指数と言われているが、市場のリスクを測る指数と言えるだろう。VIX は、向こう 30 日間のボラティリティをトレーダーがどのように予測しているか表している。

投資家の恐怖心を指数化している VIX だが、VIX の上昇は、変動が激しくなっていくことを意味している。多くの場合、相場が底を打つときに、VIX は上昇している。また、VIX が下降しているときは、変動が少なく、市場が安定していることを意味している。これは、相場が天井を打つときによくみられる。

残念ながら、VIX は S&P500 を対象にしているだけで、ナスダックやダウを対象にしていない。また、株価オプション以外で、このような変動率を数値化した商品は存在していない。

ここで、米国債、金、銀、大豆や個別銘柄の変動率を VIX のように表現するインデックスを紹介する。ここから、いくつかの例を挙げてみる。

並列動作

図1は、S&P500 の週足チャート(上段)、中段に VIX、そして下段には私が開発したウィリアムズ VIX(WVF)を載せてある。WVF は、スイングの波形、タイミング、振幅の度合いとも、VIX とそっくりだ。

図1 類似の VIX WVF は VIX と同じような動きをしている



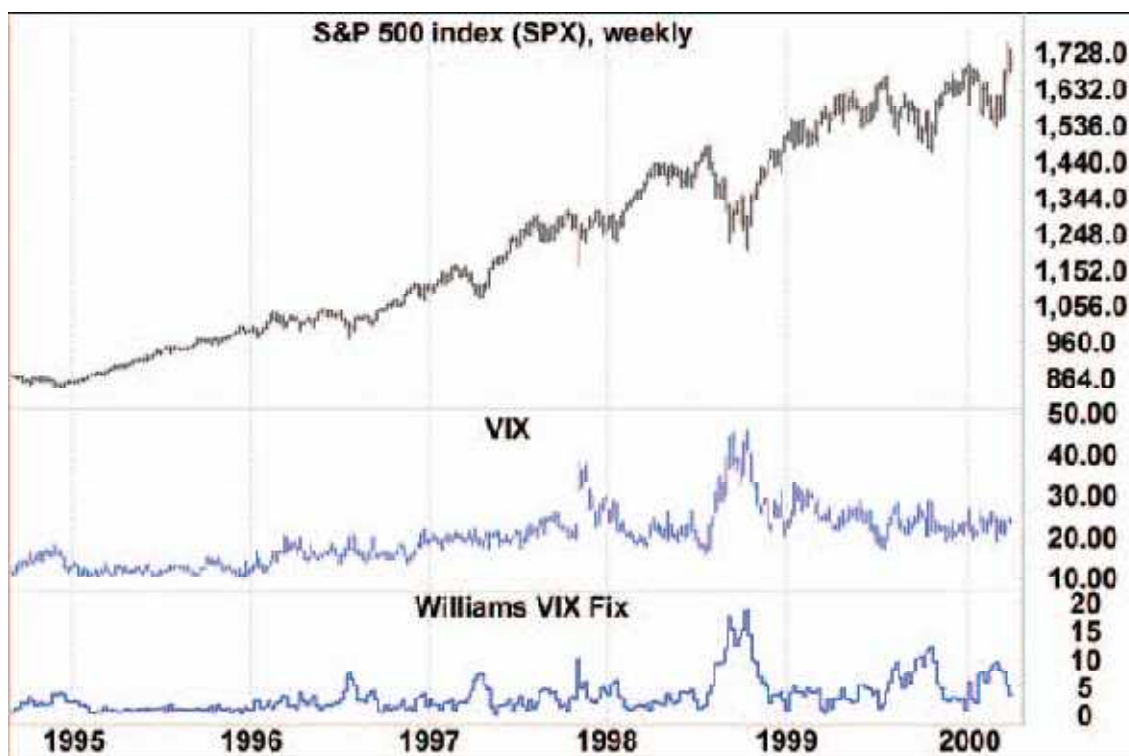
上段 S&P500 の週足

中段 VIX

下段 WVF

出所 = TradeNavigator.com

図2 1995年から2000年までのS&P500の週足 VIXのような複雑な計算なしで算出できるWVF



上段 S&P500 の週足

中段 VIX

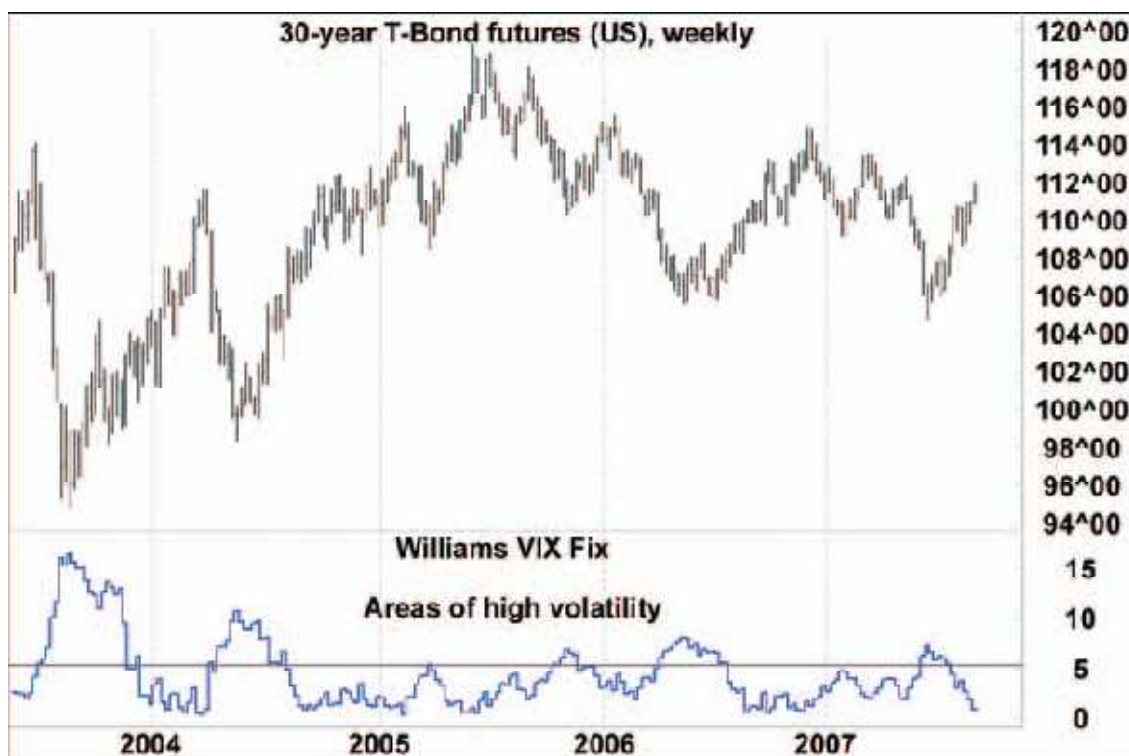
下段 WVF

出所 = TradeNavigator.com

図2では、1994年から2000年まで、WVFはVIXの動きとまったく同じと言っても過言ではない。オプションの複雑な算出方法ではなく、非常にシンプルは計算式をWVFでは用いている。

この類似のVIXは、実際のVIXと同じような動きしている。これで、変動率とマーケットのトップとボトムをS&P500以外の商品でも確認することができる。しかも、WVFはオプションの複雑な時間のかかる計算が不要である。

図3 Tボンドの週足とWVF 変動率が高まって横線を上に抜けてくると、相場は底を打つ傾向が強い



上段 Tボンドの週足

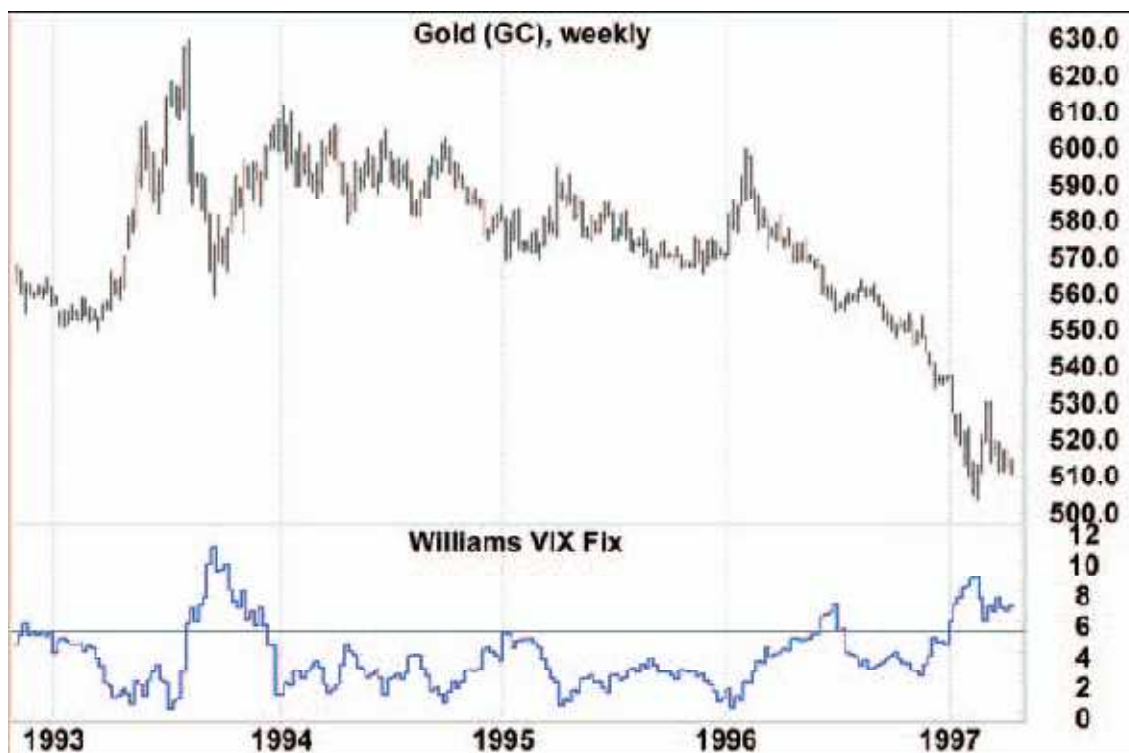
下段 WVF (横線は高いボラティリティの領域)

出所 = TradeNavigator.com

図3は、30年物米国債(Tボンド)先物市場のWVFを2003年までさかのぼってチャートに記した。WVFはボラティリティの周期性を示している。また、図1と図2でS&P500のVIXと比較してWVFが同じような動きをしていることは確認済みだが、マーケットのピークはインデックスの数値が低く、安定しているときに形成される傾向が強い。WVFの数値が高いときに、相場は底を打つことが多い。

株価指数に限らず、米国債のWVFが急騰していると、Tボンドが底を打つ可能性が極めて高い。また、このようなとき、1日の値幅は大きくなる。それは、短期トレンドや1つのスイングの終焉を迎えることを意味している。

図4 金の週足とWVF



上段 金の週足

下段 WVF

出所 = TradeNavigator.com

図4は、金(ゴールド)とそのWVFを記している。図3と同様に、スイングとボラティリティのサイクルが一致している。

このチャートから、WVFが高くなると相場の底入れが近いことが分かる。また、WVFが低い位置にあると、マーケットは上昇トレンドを形成している途中か、もしくは相場の天井が間近に迫っていることを示している。このボラティリティの周期は、株価指数や国債市場に限らず、どんな商品市場でも同じサイクルが存在している。

VIXとWVFのいずれも、ボラティリティと価格の周期性を表しているが、いずれの数値が高いときに投資家が不安に陥り、恐怖心にとらわれていることを的確にとらえている。そのため、数値が低い位置にあるときよりも、高い位置にあるときのほうがマーケットを予測するのに役立つ。

一般的に、投資家は相場が上昇中は安心しているが、一度、マーケットが崩れると不安になり、最後はそれが恐怖心へと変化していく。恐怖指数といわれるVIXだが、実は底値拾いをする投資家の心の支えになっている。

図5 2004～2007年までの金の週足とWVF 変動率が高まって、横線を上に抜けてくると、相場は底を打つ傾向が高い



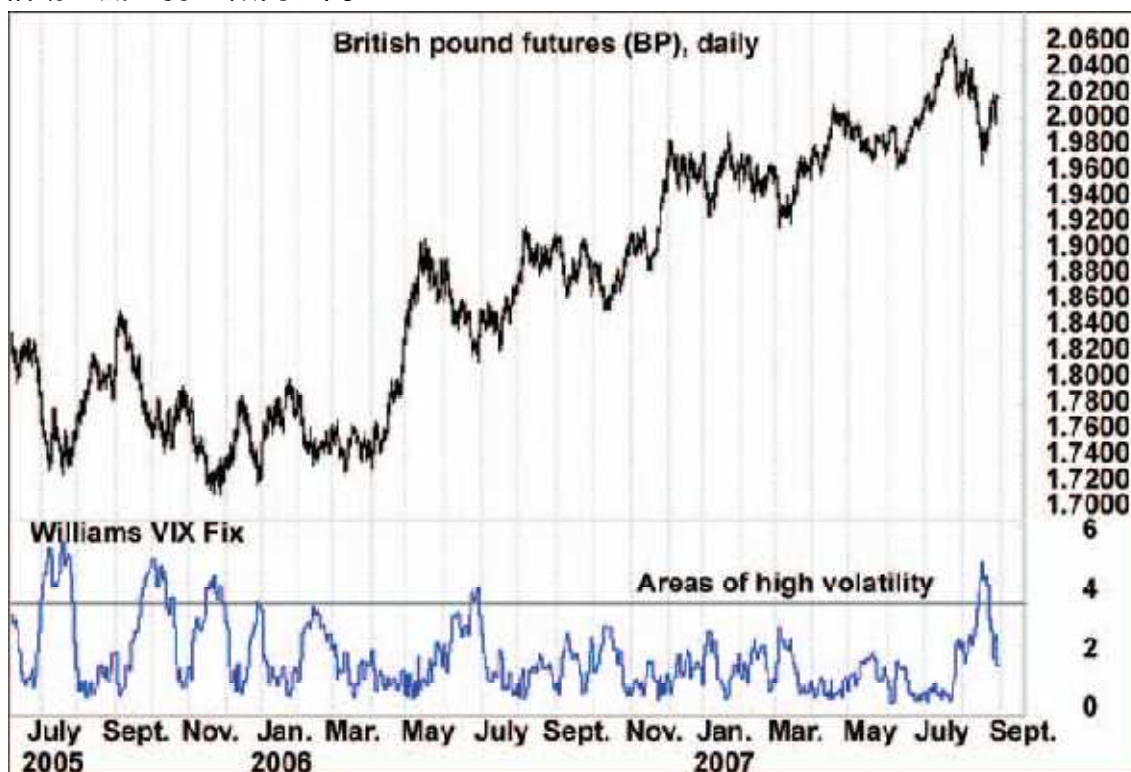
上段 金の週足

下段 WVF (横線は高いボラティリティの領域)

出所 = TradeNavigator.com

図5は、ここ5年の金価格とWVFを記しているが、価格とボラティリティの関係は今までと変わっていない。ボラティリティが上昇してくると、マーケットは底を形成する。このチャートで注目すべきは、金が2006年5月に急上昇したときも、WVFが上げていなかった点である。しかし、2006年6月と9月に底を付けたときは、WVFが急騰していた。これは、金相場特有の状況ではなく、S&P500のVIXでも同じ傾向がみられた。

図6 英ポンドの日足とWVF 変動率が高まって、横線を上に抜けてくると、相場は底を打つ傾向が高い



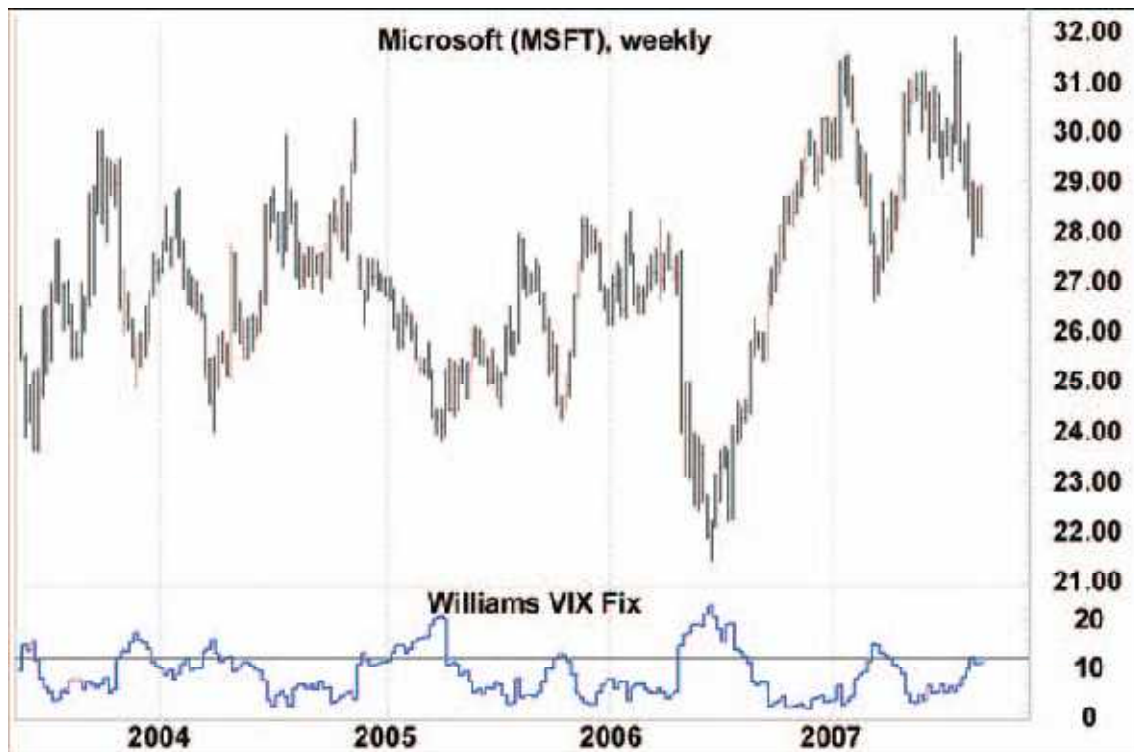
上段 英ポンドの日足

下段 WVF (横線は高いボラティリティの領域)

出所 = TradeNavigator.com

図6は、英ポンドの日足チャートとWVFである。ここでも、ボラティリティが上昇してくると、英ポンドが底を付けている。また同時に、値幅が拡大している。ほかの商品と同じ傾向が通貨先物にも表れている。まだ、2つの疑問が残っている。このWVFは個別銘柄でも機能するのか、マーケットの天井と底が形成されたことを確認する以外に、ほかの使用方法はないのかである。

図7 マイクロソフトの週足とWVF



上段 マイクロソフトの週足

下段 WVF

出所 = TradeNavigator.com

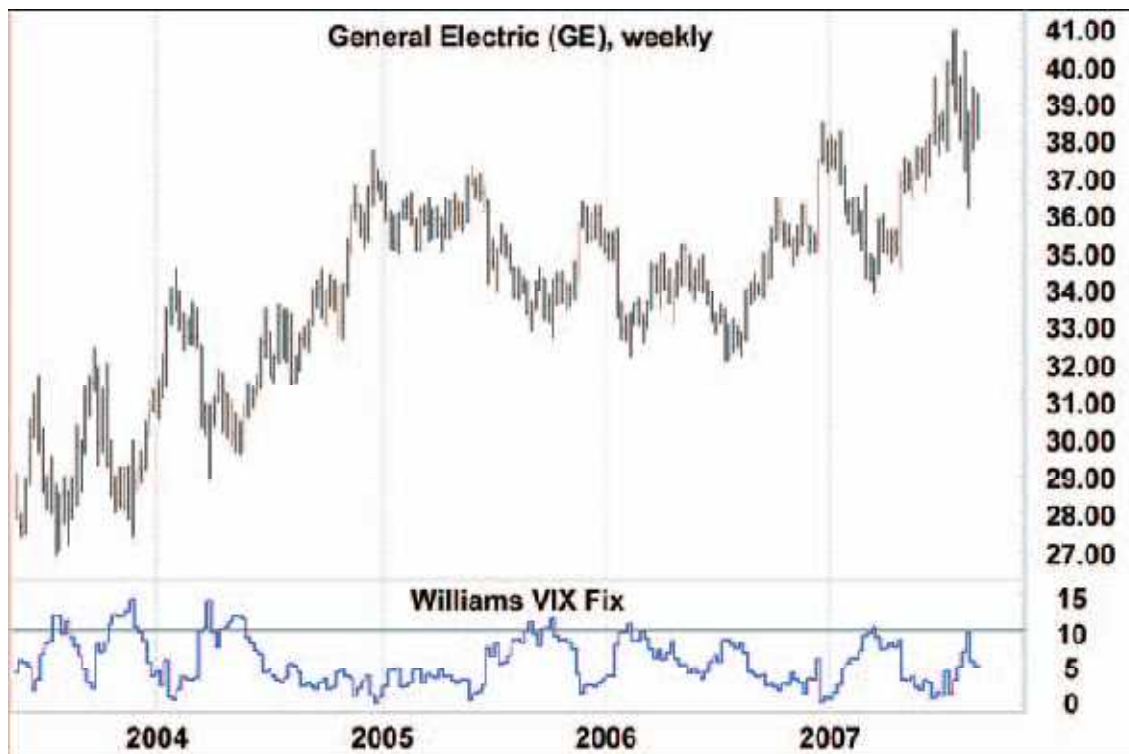
個別銘柄

図7、図8、図9はアメリカを代表する銘柄である。個別銘柄でも、このWVFがマーケットの底を正確にとらえている。ボラティリティが上昇したとき、マーケットの底が形成されている。また、ボラティリティの低下しているときは、株価が上昇して天井を形成している。

このWVFにはいろいろな活用方法がある。例えば、VIXそのものをベースに株を売買するトレーディングシステムを構築することもできる。ボラティリティが上昇するとき、トレーディングレンジが拡大して、その後に収束する傾向を利用して、割高になった銘柄を売る戦略にこのインデックスが使える。もちろん、ボラティリティの上昇したあとは、転換点が間近に迫って底を付けることも忘れてはいけない。

図7は、全世界が注目しているマイクロソフトの株価とWVFである。やはり、この株もボラティリティが上昇したときに、底を打っている。

図8 ジェネラル・エレクトリック (GE) の週足と WVF



上段 ジェネラル・エレクトリックの週足

下段 WVF

出所 = TradeNavigator.com

図9 スターバックス (SBUX) の週足とWVF



上段 スターバックスの週足

下段 WVF

出所 = TradeNavigator.com

図8はジェネラル・エレクトリック(GE)の株価で、図9はスターバックスの株価とWVFである。マーケットに存在する自然のサイクルが、これらの銘柄にも表れている。もちろん、このインデックスが完璧なものとは思っていないが、市場の状況を把握するうえで重要な指数であると言える。どの企業の株価であっても、ボラティリティと価格のサイクルは存在している。つまり、銘柄が何であろうとまったく関係ない。

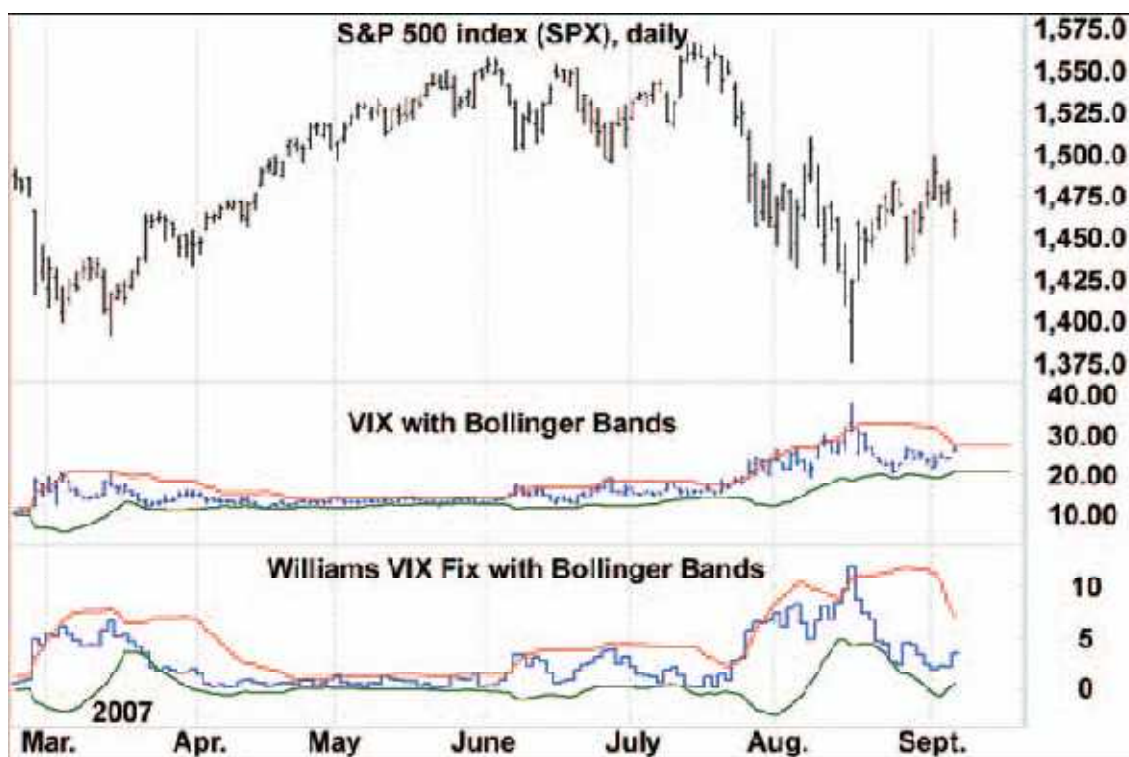
微調整

すでに、WVF の活用法でいくつかのアイデアがわいてきていると思うが、ここで私なりの活用方法を紹介したい。

ボラティリティは上下に振幅を繰り返して、その天井と底がはっきりしないことがある。そこで、VIX と WVF のボリンジャーバンドを作成してみる。これによって、ボラティリティの変化に、瞬時に対応できる。バンド幅の変化はボラティリティによって引き起こされているため、その値を一定に保つ必要はない。

図 10 の VIX と WVF は、同時にバンドにヒットしている。これは、この2つのインデックスがほぼ同じ動きをしていることを証明している。まったく同一ということではないが、WVF が VIX の代わりになり得ることを示している。

図 10 S&P500 の日足 VIX と WVF のボリンジャーバンド



上段 S&P500 の日足

中段 VIX とそのボリンジャーバンド

下段 WVF のそのボリンジャーバンド

出所 = TradeNavigator.com

図 11 スターバックスの日足と WVF とそのボリンジャーバンド



上段 スターバックスの日足

下段 WVF とそのボリンジャーバンド

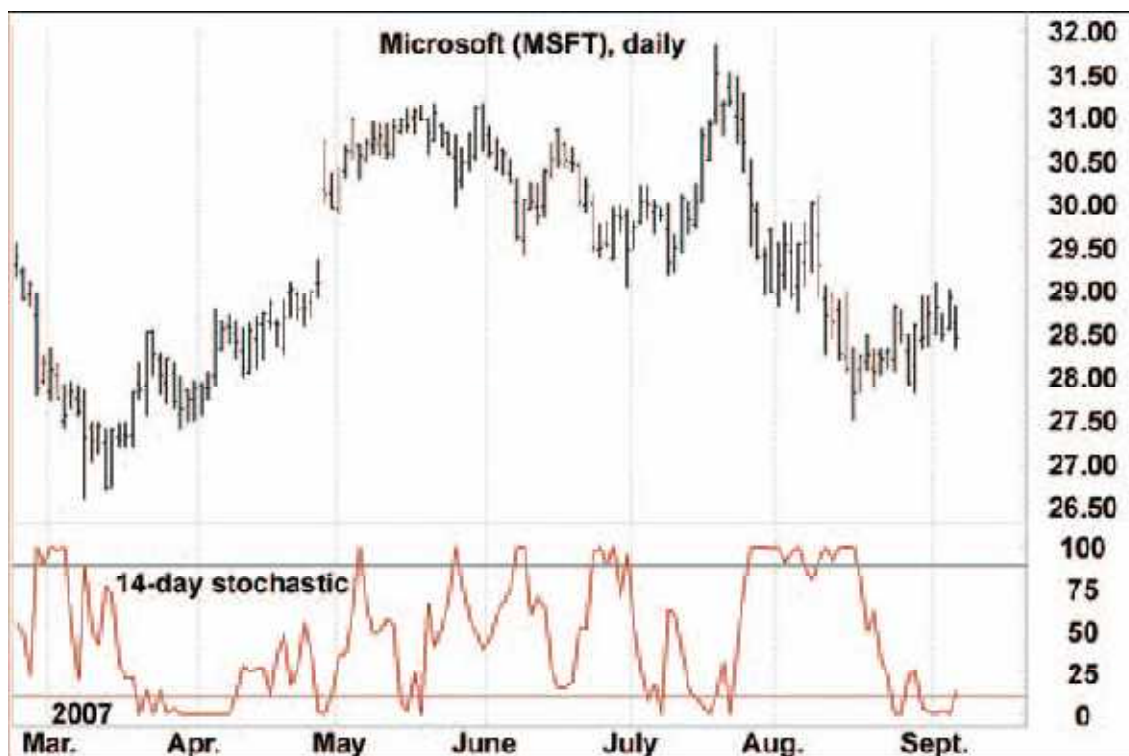
出所 = TradeNavigator.com

株価指数で機能しているこのインデックスは個別銘柄でも活用できる。これを念頭に、図 11 のスターバックスの VIX と WVF をチェックしてみる。図 10 で確かめた VIX と WVF の動きが同一だったように、図 11 の WVF もスターバックスの動きを的確につかんでいる。

ボリンジャーバンドのほかに 14 日間の WVF ストキャスティクスを用いる方法もある。もちろん、WVF は日足だけではなく、週足でも活用できる。

WVF ストキャスティクスが 80% を超えてくるとマーケットが底を打っている。また、20% よりも下げてくると相場は天井を打っている。

図 12 マイクロソフトの日足とWVFの14日間ストキャスティクス



上段 マイクロソフトの日足

下段 WVFの14日間ストキャスティクス

出所 = TradeNavigator.com

WVF自体はトレーディングシステムではない。あくまで、指数であって、ボラティリティと価格のサイクルを見分けるツールの役割しかしていない。もちろん、サイクル分析から、マーケットが次にどちら方向へ向かうか予想することは可能だろう。

ラリー・ウィリアムズ

Copyright © 2009 Larry Williams Trading & Training Center. All rights reserved.【免責事項】説明・解説した方法や技術、指標が利益を生むとか、あるいは損失につながることはないとは仮定してはなりません。過去の結果は将来を保証するものではありません。自己の責任に基づき独自にご判断下さい。売買の注文を勧めるものではありません。特定の金融機関・金融商品を推奨・勧誘するものではありません。口座開設や投資の判断はすべて自己責任で行われるべきであり、そのいかなる結果にも当社は責任を負いません。本内容を無断でコピー、引用、転売などの行為は禁止します。

©Pan Rolling 2009 Printed in Japan